

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [富山市立神通碧小学校・楡原中学校] 担当教諭名[堀 泰洋] (小6年15名 中1年4名)

相手国・地域[台湾]

海外学校名 [Chien-Kuo Junior High School] 担当教諭名[Dolphin Lin]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数 (小学校の実施状況で記載)	総合的な学習の時間	同じ世界に生きるわたしたち(9月からの時数)	50
	国語	今、私は、ぼくは	10
	社会	世界の中の日本	8
	図画工作	願いを形に	8

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	子供は世界中の宝物
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	このテーマ学習のおかげで、相手国も私たちが子供を大切にする文化や行事に包まれて過ごしていることを実感することができました。そして、その伝統や文化をつくりだしている国やふるさとのありがたみも味わうことができました。世界中どの国も、心は同じだと思います。子供たちは世界中の宝物です。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
とても素晴らしいパートナーに恵まれ、大変充実した学習となった。協働の壁画制作というノンバーバルなコミュニケーションを介して具体的なゴールを目指すことで、当初想定した以上の交流が生まれた。多文化理解が進むことで自文化への見つけ直しが自然に起こるなど、高い学習効果があった。	壁画の完成後のシェアリングが十分にできなかった反省が残る。制作が2月初旬までには完了するとよい。そのためには、11月にはテーマ学習が完了しておくことが望ましく、9月から10月終了までのスケジュールに、更にノウハウが求められる。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
台湾の存在は知っていても、国の詳細や文化、日本との関係についての知識がほとんどなかった子供たちだが、直接、間接での交流を重ねるたびに相手国への関心が高まっていった。また最初は見知らぬ相手との交流に積極的ではなかったが、学習の終末には「この学びを生かして他者と積極的につながりを求めていきたい。」と述べるような感想が生まれるなど、大きな変容が見られた。	担当者との打合せを重ねる中で、教師自身もパートナー国の文化への理解が進んだ。担当者とは事務的な話題にとどまらず、互いの国の教育文化や手法の違いなど、多様なコミュニケーションが交わされた。他国とのコラボレーションのノウハウも蓄積でき、教員にとっても今後の財産となる学習経験となった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	・まず、お互いの学校の制服や双方の文化を紹介するパッケージを贈り合い、関心を高めた後にスカイプミーティングを行った。	・違う文字、言葉、文化、お菓子の味など間接的ではあったが、具体的な違いを目の当たりにして驚いた一方で、簡単な英語表現でコミュニケーションができた児童が多かった。	総合10 社会2
共有 テーマ学習	10月	・担当教諭同士が合意した視点に沿って、テーマ学習を開始した。	・最初は「子供」という視点で自分達の国や地域、生活、文化の何を調べればよいか戸惑っていたが、相手の発表から文化の違いに気付くことが、強い意欲を生み出すきっかけとなった。	総合20 国語4 社会2
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	・テーマ学習に関して調べたことを、ポスターにまとめ、発表内容をビデオ収録し、フォーラムに投稿した。パートナー国の発表から共通点と相違点を明らかにし、メッセージ案を考えた。ここまでの学習経過をまとめ、学習発表会にて発表した。	最初は相手国との違いばかりに目を向けていたが、そもそも自国のことをよく知らない、という現実と直面したことで、課題が明確な調べ学習が展開されるようになった。互いの文化の共通点から壁画のテーマを見つけ出そうという学習の流れが決まった。	総合6
創造 壁画制作	12月	合意したメッセージ案から下絵を作成し、壁画制作に取りかかった。12月中旬に完成し、パートナー国に送付した。	10月のテーマ学習で調べた要素をどう配置して、共通のメッセージを表現するかという課題に関して一人一人が自分の考えをもち、学習が進められた。	図工8 総合2
評価 振り返り 自己評価	1月 2月	ESD富山シンポジウムで取組成果を発表する過程で学習のまとめを開始した。まとめた内容は2月の学習参観や3月の地域行事において保護者や地域住民に披露した学習と並行してクリスマスカードや正月飾りなどを贈り合う一方で、台湾の震災時にもメッセージを交換するなど、交流を深めた。	学習のまとめを1回で終えるのではなく、3回ある発表の機会を意識して表現することができた。表現を繰り返す中で、新たな意味づけをしたり、深化・統合させたりする姿が見られた。	総合12 国語6 社会4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	5	相手国の文化に触れ、違いの意味を考えることが自国の文化の見つめ直しにつながった。
異文化を理解する力	4	壁画にとどまらず、品物やカードの交換などの交流がとても有効だった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	3	フォーラムの存在は言葉を介しての交流に役立った。活用法には工夫の余地が残された。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	スカイプミーティングなどの直接交流は貴重な経験となった。できれば複数回設定できるとよい。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	異文化に触れる過程で、違いや共通にじっくりと触れさせる学習過程が必要である。
主体的に考え行動する力	4	学習過程を振り返ると、課題の設定場面、テーマやメッセージを決める場面、具体的な活動場面などで多様な自己決定を促せる場面があった。この経験を生かして意図的に学習を仕組むとよい。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	今回不足している場面であったが、互いにテーマやメッセージをすりあわせる過程が、相手への深い理解の形成に作用していることが分かった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	このような大きなモチーフの制作体験はこれまでに経験がないため、適切な指導者の助言や支援が必要であったが、想いを形にする力の育成には大きく寄与したと思われる。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	全員が制作過程を振り返り、作品評価と自己評価ができていた。そのよさを更に生かすためにも、お互いがなぜそのモチーフを選んだのか、もっと交流させる場面があればよかったと反省している。